

■湿式工法による防水押え工法の問題点

①機能の不明確

- ・防水層の末端の押え→固定金物による固定が標準。

・保護機能

②工期の長期化

- ・れんが積み、モルタル仕上げ。
- ・型枠組立、コンクリート打設、型枠解体。
- ・大量の資機材の揚重や搬出。
- ・清掃(モルタル、コンクリートのこぼれ)

③保護層自体のひび割れ等の故障

- ・**ひび割れ**→材料自体の収縮、温度変化による伸縮。
対策☞V溝、伸縮目地などが一般的。
目地設置位置以外のひび割れは防止できない。
- ひび割れ**⇒意匠上のクレーム。
⇒白華現象、さらにモルタルの剥離。
⇒防水層破断への恐れ。

④点検や維持補修への対応の不備

- ③の事由による防水層破断、漏水が発生。



点検・調査

保護層の部分的に撤去と不良箇所の発見は困難



全面改修

●容易な維持管理が難しい。

⑤コンクリート笠木の止水性の疑問

- ・日射の影響を受けやすい

ひび割れの発生

対策☞目地を設け、シーリング材で止水。

目地設置位置以外のひび割れは防止できない。



コンクリート笠木からの漏水